

## 生きている時間？

フォークシンガー たかはし べん

「みんなと一緒にじゃないってぼくを笑わないで みんなと同じじゃないってぼくを笑わないで のっぼだとか ちびだとか 太ってるとか やせだとか めがねをかけてるからって ぼくを笑わないで」『ぼくを笑わないで』という曲です。この曲を完成してすぐに東京の青梅市の小学校で歌いました。コンサート後、4年生くらいの女の子が周りの様子を気にしながら、ぼくの耳もとでささやいた。「わたし眼鏡をかけてるからみんなに笑われるんです。べんさんが歌ってくれてうれしかった。ありがとうございました」少し大きな眼鏡をかけた子は、「さようなら！」と喋ってランドセルをカタカタいわせて、駆け足で走り去った。ちょっとした、からかいの言葉でも、ひとは心に大きな傷を持つ。「そんな小さなことで、悩まないで！」と言われても、傷つけられた方はつらい。

競争社会の中で、私たちは知らず知らず、ひとと競い合っている。親たちは子どもを勝ち組に入れるためにシツタする。子どもは子どもで、「勝たなければ落ちこぼれる」という社会の仕組みを敏感に感じ取り、自分の親をもハカリにかけて、負け組の親を軽蔑する。勝った負けたの社会は心を許せる友人もできない。競争社会の原理です。いじめはそんな社会の負の産物です。

勝った負けたではなく、ひととひとが大切にしたい社会はできないものかなあ？と思います。ひとと競い合う必要がなければ、人生って本当に楽しいのになあ？と。

ポリアンナ物語にうれしい言葉をみつけました。

「9月から学校へ行きましょう。それまでは本を読み、料理を習い、他の日の午前は裁縫で午後には音楽です」おばさんからそう言われたポリアンナは「おばさま、それじゃあ生きている時間がないわ！」

9月の例会では「生きている時間！」で会いましょう。



たかはし べん氏

### プロフィール

30歳まで電々公社（現NTT）で働き、その後、ギターを弾きながら、曲を創作し歌いはじめる。世界20ヶ国を旅する。子どもの頃の少しつらかった体験の中から、小さな子どもへ贈る歌が多い。創作曲300曲あまり。これまで、子ども劇場・おやこ劇場、小中高校、公共施設など、2500回以上のコンサートを全国で公演。代表曲「ハエをのみ こんだおばあさん」「いいの！」「おかあさんあのね」「おかしなお菓子」「息子に」「僕と点数」。CD「せかいじゅうの海が」他11枚、絵本「いいの！」（坪谷礼子絵）を出版。